

# 健康と光線

## サナモア光線療法の理念

— 自然の法則に無駄はない —

サナモア光線協会  
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

### 自然は無駄をしない

父の志を継いでサナモアを天職として30年有余になりました。この間、サナモアの啓蒙、普及の業務に従事し、本紙に学理について掲載してきましたが、理屈っぽい話ではなく、サナモアの有用性を無条件に信じて貰える分かなりやすい表現はないかと常々考えていました。ある時、ギリシャの哲学者、アリストテレスが天体から生物を包摂した自然の法則の中で、自然は無駄

をしない、と述べた文言に接し、わが意を得た思いがしたのです。

サナモアの原点は古代から医療に用いられている日光療法です。その歴史を顧みると、医学の祖と呼ばれ自然治癒力を強調したことで知られる医聖ヒポクラテスを始め日光療法を行った先達の時代には、光線のスペクトルに可視線の外に目に見えない紫外線、赤外線があり、それぞれが独自の作用を営むことは全く知られていませんでした。

発行所  
〒153-0063  
東京都目黒区目黒  
4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行  
会費年500円  
電話 東京 (03)  
3793-5281  
3712-5322

それにも関わらず、生物は光線が降り注ぐ自然環境に適応し順応しているのだから、光線には自然治癒力を高めて病を治す効果がある筈だと、直感的、霊感的に信じて医療に応用し、その効能効果を実体験したに相違ありません。要は学理抜きで日光療法を行った背景には、自然は無駄をしないと一脈相通する自然崇拜があると考えられるのです。

### 光がなければ

#### 食べ物はない

光線の必要性を論ずる際に分かり易いのは光合成です。光合成は植物の葉緑体が光線エネルギーを捕らえて、水と炭酸ガスから有機物のブドウ糖と酸素を生成する反応ですが、ありとあ

らゆる生命を支える食べ物と酸素を一手に供給しています。すなわち「光りがなければ食べ物はない」のが自然の法則なのです。言うまでもなく、水と炭酸ガスは無尽蔵にあり、入手は容易ですが、米製造株式会社がないのは、未だ人智が遠く及ばない光線エネルギーによる神秘の作用、光合成に代わる術がないからです。

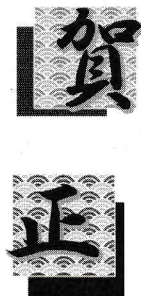
### 光がなければ

#### 病気になる

光線不足が病気の原因になることは、20世紀初頭にクル病の研究で明白になりました。今では光線にビタミンDを生成する作用や熱ショック蛋白質の発現を促す作用があることが解明され、健康を維持し、病を予防し、自己治癒力を高めて病を治す機転を促すことが明らかにされています。光りがなければ病気になるのは、無駄をしない自然の法則に照らして当然ですが、光が余りに身近にあるため、光

線不足の弊害の認知度は今一です。

ところで今冬、新型と季節性が入り混じってインフルエンザが大流行すれば、前号でも記載しましたが、最後は自己の体に備わった免疫力で闘うしかありません。サナモアが放射する光エネルギーは、自然の法則に則って、自己防衛の免疫力を向上させる有用な手段になることを理屈抜きで信じて、日頃から活用して備えて下さることを願っています。



平成二十二年 元旦

(株)東京光線療法研究所  
サナモア光線治療院

(五日より営業します)



# 一病息災 一病息災

## 感染症／免疫のしくみ／

サナモア光線治療院

院長 医学博士 宇都宮 正範

### 免疫を担う細胞

今年、春先から国内に拡がり始め、猛威をふるっている新型コロナウイルスエンザが、我々にとって、大きな脅威となっていることは事実です。しかしながら、人類には、強力な免疫システムがあり、様々な細菌やウイルスと出会うなかで、幾多の危機を乗り越えてきた長い歴史があります。もし仮に、人類にこのような免疫システムがなかったとしたら、ここまでこの繁栄を築く前に滅んでいたかもしれません。そこで、今回は免疫のしくみについて触れてみたいと思います。

ご存知のように、免疫は、細菌やウイルス等の病原体の侵入から身体を守るシステムですが、実際には血液中の白血球により行われています。その白血球も数種類の細胞に分類されており、マクロファージ(大食細胞)に分化し、細菌等の異物を処理する単球、好中球、好酸球、好塩基球からなる顆粒球、そして免疫システムの中核をなすリンパ球(Ｔリンパ球、Ｂリンパ球)からなります。

### 自然免疫と獲得免疫

免疫は大きく自然免疫と獲得免疫の二つに分けられます。自然免疫は、自分の身体に属さな

い異物(抗原)が体内に入ってきた時に、マクロファージや好中球が中心となり、異物を飲み込んで処理(食作用)するシステムで、獲得免疫は、自然免疫で処理できない場合に、リンパ球が中心となって異物を攻撃する、より強力な免疫システムです。

### 強力な獲得免疫

獲得免疫は、細胞性免疫と液性免疫に分けられますが、細胞性免疫では、Ｔリンパ球が抗原の除去に参加します。まず、マクロファージが抗原を飲み込み、Ｔリンパ球に抗原の断片を提示することによって、キラーＴ細胞が増殖し、直接、攻撃します。この際、抗原を記憶して次の侵入に備えるメモリーＴ細胞も作

られるため、次の攻撃に際しては、速やかに免疫を活性化できることになります。

また、液性免疫の主役はＢリンパ球で、抗体を作って身体を守ります。抗原を提示されたＴリンパ球は化学物質を放出し、Ｂリンパ球を増殖させますが、Ｂリンパ球は大量の抗体を作り、抗原抗体反応によって抗原を無害化します。Ｂリンパ球にも抗原を記憶するメモリーＢ細胞があり、リンパ節に貯蔵され、次の攻撃に備えるのです。

### 免疫と自律神経系

自律神経には、交感神経(イライラ、緊張時に働く)と副交感神経(睡眠時、リラックスした時に働く)がありますが、顆粒球は、交感神経の支配を受け、リンパ球は、副交感神経の支配を受け、マクロファージは双方の支配を受けています。そのため、睡眠不足や休息不足では、副交感神経の作用が低下し、リンパ球が減少し、免疫力の低下につながるのです。

### 免疫と熱

免疫の中心はリンパ球であり、カゼなどのウイルスと戦う際に、中心的な役割を果たしています。が、リンパ球が最も力を発揮できる体温は38度～39度です。ですから、感染時に熱発することは理にかなったことであり、身体が一生懸命戦っていることの証拠のようなものです。

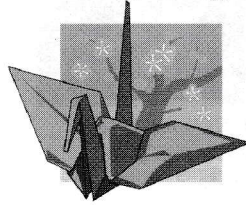
### 免疫力を高める

#### 光線療法

サナモアの紫外線の効果で產生されるビタミンDが、リンパ球に作用し、免疫力を高めることが分かっています。また、赤外線線の深部温熱作用で体温が上昇すると、副交感神経が優位な状態となり、リンパ球にとっては働きやすい環境となります。このように、サナモアと免疫力の間には密接な関係があり、サナモアで免疫力を高めることが、未然に感染症を予防すると共に、治療にも役立つことをご理解下さい。



## サ/ナ/モ/ア/便/り



vol.40 宇都宮 正範

## 謹賀新年

明けましておめでとつござい  
ます。今年、サナモア光線治療  
院は、十年目のお正月を迎える  
ことができました。このことは  
先行き不透明な現代社会にあっ  
て、信じ難いことかもしれませ  
んが、これも偏に、サナモアを愛  
用し、使い続けて下さいました  
皆様方のお蔭と思っております。

もともとサナモア光線治療院  
は、サナモアのことを知らない  
方を対象とし、実際、体験して  
頂ける場所を提供する必要があ  
るとの思いからスタートした訳  
ですが、以外にも、既に治療器  
をお持ちの方が、全身照射の方  
が、気持ちいいからといった理  
由で来院されており、多灯によ  
る全身照射の秘めた可能性を感  
じております。

これからも、治療院スタッフ  
一同、少しでも皆様の健康維持  
にお役に立てるよう、精進する  
所存でおりますので、よろしく  
お願い申し上げます。

## 第十五期

## サナモア光線治療師

## 養成講座のお知らせ

本年も、サナモア光線協会の  
中心的事業でありますサナモア  
光線治療師養成講座を開講する  
予定でありますので、光線治療  
院の開業をご検討されている方  
やサナモア光線療法について勉  
強したいとお考えの方は、サナ  
モア光線治療院(〇三三五九  
三七一〇まで)ご連絡下さい。  
なお、日程等の詳細につきま

しては、次号に掲載させて頂き  
ます。

## 第三十二回

「光と熱研究会」  
のお知らせ

医療に関連した話題の講演や  
治験例の報告を中心とした研究  
会を開催いたしますので、一般  
のご愛用者の方も是非ご参加下  
さい。なお参加は無料です。

日 時：四月十七日(土)

午後二時三〇分

場 所：サナモア光線治療院

三階会議室

## 治療師紹介

このコーナーでは、光線治療  
院を開業され御活躍中の先生方  
や、光線治療師の資格を取得さ  
れ、光線療法の啓蒙・普及活動  
に携わっている先生方をご紹介  
させて頂いております。

## 中山治療院

中山 裕之治療師

(第十四期生)

営業時間：10時～20時(予約制)

休院：金曜日

電話：〇三三三六九六一一五〇

住所：東京都葛飾区奥戸

八十一十二

交通：JR総武線小岩駅から

バスで10分

一言：私がサナモア光線療法を  
学び、治療院を始めるきっかけ  
となったのは、高齢の父の治療  
も併せて行いたいという思いが  
あったからです。普段、「風邪

はひかせないよう気をつけて下  
さい。」と担当医から注意を受  
けている父は、手術を拒み、保  
存的治療のみで、自宅にいま  
す。が、今のところ、小康状態を保っ  
ています。時折、体調を崩すこ

とはありますが、元来、平熱が  
低く、呼吸器系に難のある父に  
とっては、光と熱の効果によっ  
て免疫力を高めるサナモアが、  
非常によく合っているようです。  
入浴による温熱療法に比べ、サ  
ナモアによる保温効果は、持続  
時間が長く、冷えていた下半身  
も温まり、同時に腰痛も解消し  
ました。

現在は、咳と痰も減っており、  
体調はすぐる良好のようです。  
当院では、サナモア光線療法  
に鍼灸、整体療法を加え、一  
人でも多くの患者さんに健康を  
取り戻し、喜んでもらいたいと  
考えております。

## ◆ 募 集 ◆

## サナモア光線治療師

当協会の趣意に賛同され、  
サナモア光線療法の普及に  
ご協力頂ける方、治療院の  
開業を検討なさりたい方は、  
お問い合わせください

〒153-0063

東京都目黒区目黒1-23-11

TEL (03) 5759-3710

FAX (03) 5759-3720



## 第21回

## 日本療術学会から

鹿児島県 城山観光ホテル

平成21年11月29日～30日

## シンポジウム

## 「痛みと療術」



財団法人全国療術研究財団  
光線部会代表世話人  
宇都宮光明

## 慢性痛症と

## 光線療法

痛みには急性痛と慢性痛があり、臨床的に最も多い訴えである。急性痛は侵害受容器―神経伝導路―中枢の経路のどこかの組織傷害による侵害刺激が大腦

皮質感覚野に伝えられて痛みとして知覚するため、病変を知らせる警告信号として捉えられている。慢性痛には急性痛の組織傷害が治癒せずに長引いている痛みと組織傷害は治癒しているため警告信号としての意義はないにも関わらず長期にわたり激しい苦痛を強いる難治な痛みがある。この急性痛が長引いている慢性痛と組織傷害には結び付かない慢性痛を区分するため、後者を慢性痛症と呼ぶことがある。慢性痛症については、さまざまな病名が用いられ統一した用語がなかったため、1986年に国際疼痛学会の分類用語委員会は、慢性痛の痛みの症状のみに着目して、複合性局所疼痛症候群・complex regional pain syndrome・CRPSと呼ぶことを提唱し、神経損傷がない慢性痛をCRPS Type I、神経損傷と関連する慢性痛をCRPS

Type IIすると定義した。神経損傷がないCRPS Type Iの病態を説明する説に痛みの悪循環説がある。すなわち患部の交感神経が異常に興奮して血流を阻害し、酸素や栄養の供給が滞るため、組織傷害を起こして発痛物質を分泌、遊離するのが痛みの原因で、そのため痛みは慢性化し難治となる、交感神経依存性の痛みの悪循環が成立するとした。神経損傷と関連するCRPS Type IIは带状疱疹後神経痛のように、神経の変性、可塑的な歪みにより、神経が自発的に興奮して起こる神経障害性疼痛である。なお痛みの増幅には、中枢神経系の侵害受容ニューロンが過敏化する中枢性感作が関係するとされている。言ってみれば、慢性痛症の痛みのメカニズムは錯綜しており、CRPS Type IとCRPS Type IIは互い

に重複、干渉する部分が多い。ところで慢性痛症は痛みそのものが病気の本体であり、組織傷害による痛みではないため、有効な治療薬はない。そのため痛みが固定し完成すると治療は困難を極め、長期にわたり耐え難い痛みで苦しむことになる。この慢性痛症から逃れる治療の第一歩は鎮痛である。最初は一時的でも痛みを緩和し除く努力を怠らずに、体に備わった自己治療力を効果的に引き出し、徐々に改善するように努めるしかない。光線療法には、光線の深部温熱作用で患部の血流を改善し、筋緊張を緩和し、発痛物質を排除することで即効性のある除痛、鎮痛効果がある。その上で、長期にわたり光線療法を継続、回復して、繰り返し除痛、鎮痛を体感することで、交感神経が異常に興奮する状態を鎮め、痛みの中枢性感作からの離脱を図る

ようにする必要がある。またビタミンDのカルシウム代謝を正常にする作用には、神経の変性、可塑的な歪みを改善する効果が指摘されている。さて慢性痛症の治療で最終的に求められるのは、痛みの悪循環を解消して症状が持続的に消失するように導き、ADL(日常生活動作)に支障がないようにすることであるが、この治療に至る過程で大きく関係するのが自己治療力であり、この自己治療力を向上させるのは血流によって運ばれるエネルギーである。治療例の経験でも、慢性痛症の痛みを断つには長期にわたる治療が求められるが、前以てクライアントにインフォームドコンセントを行い、納得した上で信頼関係を築くことが、治療の継続を助け、自己治療力の向上による治療機転を促すことを述べ結びとする。



## 一般演題

「ギラン・バレー」  
症候群の治験例

社団法人 神奈川県療術師会

海渡一二三

## 目的

子供が風邪気味と思っていたが、いつもと様子が違うので病院を受診し、ギラン・バレー症候群と診断され、母親が当院の多灯、全身照射を希望して来院した。なお報告例は昭和56年の治験例であるが、母親からお礼話を聞いて思い出し発表することにした。

## 症例

【患者】6歳 男児 小学生。  
【主訴】嘔吐、下痢、歩行でふらつく、目を閉じられない、食事でもむせて咳き込む。

【現病歴】主訴に加えて風邪の症状があり、ギラン・バレー症候群と診断されて治療を受けたが、症状が続くので当院に連れて来たとのことである。なお初診時、患者の顔色は青ざめ、倦怠感、脱力感を訴え、歩行はふらついてつらそうであった。

【既往歴】特記すべきことはない。光線療法は以前から自宅でも愛用している。

## 療法ならびに経過

光線療法は4台の治療器で4灯照射した。カーボンは当初Aを使い、病状が改善してからA Bで照射した。治療は側臥位で顔面、腰部、臀部、膝に各15

分、腹部30分、後頭部と膝裏15分、足裏30分照射してから、仰

臥位で代謝を高め発汗作用を促すため、右から甲状腺部(一号集光器)、左から胸部、右から腹部、左から膝部に各15分、次いで逆方向からそれぞれ各15分照射した。なお当院の休業日においては、自宅での照射法を指示した。

治療を始めて三日目には嘔吐や下痢の症状が軽くなり、五日目には全くなり、汗も出るようになった。治療を継続して

十日を過ぎた頃から神経症状の改善を認め、二十日が経過した頃には、歩行がすっかりしてきて、まぶたを閉じて眠るようになり、眼の焦点も定まり、日に日に元気を取り戻した。そのため当院の治療は経過観察の範囲にして、自宅で光線療法を続けるように指示したが、その後は順調に経過して快癒した。

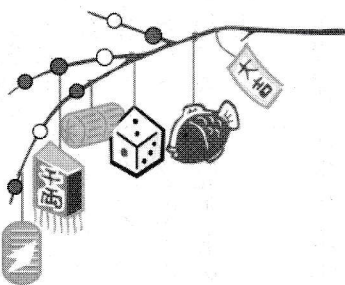
## 考案ならびに結語

ギラン・バレー症候群は、神経症状の発現に先行して呼吸器系や消化器系の感染症があり、自己の免疫システムが自己の末梢神経系を攻撃して炎症を生じ、髄鞘を破壊して脱髄を起こすのが主因とされている。演者は第一回の本学会で中枢神経系の脱髄疾患の多発性硬化症の治験例を報告したが、ギラン・バレー症候群は末梢神経系の脱髄疾患である。

神経症状は下肢の筋力低下で始まり、上行性に体幹、上肢、脳神経領域に広がる。そのため四肢に力が入らなくなり、両側に目が閉じられなくなる顔面神経対麻痺を起こしたり食事を飲み込みにくくなったりが、症状は一ヶ月以内にピークとなり、その後の神経症状の回復は良好とされているが、一部の症例で炎症が軸索に及ぶと、髄鞘

が再生されず難治な後遺症を残すため、特定疾患、いわゆる難病に指定されている。

ところで多発性硬化症の治験例を報告した際に述べたが、脱髄疾患の予防、治療に日照を求めた転地療養が有効なことが指摘されており、実験的に紫外線を遮断してカルシウムを欠乏させると脱髄を起こすことが明らかにされている。今回の報告例で、速やかに神経症状が改善したのは、髄鞘の再生に光線療法が寄与したと考えられる。





## 治験例報告

## サナモアで再発を繰り返した

## 慢性中耳炎を治療

神戸市 ウエノ光線療研

上野 健太郎氏報告

TEL 〇七八ー三三二二五八

症例 29歳 男性

症状 10歳の時、急性中耳炎に罹患し耳鼻科通院した既往があり、中学生の頃、量は少ないが耳漏が時々見られるようになる。大学二年になり、日常生活に支障はないが、一方の耳が、時々聞こえにくくなるように感じたため、病院を受診。そこで、医師から、以前の中耳炎が治りきらず、鼓膜に穴が開いていて、炎症が慢性化した状態にあり、慢性中耳炎と診断され、今後、難聴が進行する可能性があるとの説明を受けた。その後も風邪をひくと、耳漏を繰り返したが、サナモアを購入した叔母の勧めにより治療を希望し来所した。

療法経過 治療はBCカーボンで、集光器を用い、患部である右耳を20分、ガラス管を使用し、喉を直接10分照射。次に、

追加照射すること、特に耳には、一日二回の照射を指示した。治療開始から、しばらく耳漏は止まらず、量の多い日もあったが、10日目頃から、次第に耳漏の量は軽減し、約一か月が経過した頃には、風邪をひいても、再発を認めなくなった。何より嬉しいことは、風邪をひく回数が激減したこと、これまで感じていた耳の中の湿った様な不快感を自覚しなくなったことで、再発の不安から解放され、快適な日常生活を過ごせるようにしてくれたサナモアに感謝している。

## 治験例報告

## 手術を勧められた

## 真珠腫性中耳炎をサナモアで治療

福岡県春日市 育美健康光線療研

山崎 いく子(旧姓前田)氏報告

TEL 〇九二ー五八一〇三三九  
五七二一五七三

症例 42歳 女性  
症状 サナモア愛用者。最近、風邪が引き金かは、はっきりしないが、耳が痛くなり、耳漏と難聴を認めたので、病院を受診

したところ、真珠腫と診断され手術を勧められた。しかし、自分としては、手術より、サナモア光線療法で治療したいと考え、手術を先延ばしにして帰宅。早

## 全自動光線治療器

## はつらつさんと

## ジョイントカーボン

サナモアはカーボンの芯剤を完全燃焼させることで最も効果のあるスペクトルを含む光線を放射するように、正面からカーボンをぶつける正面発光式を採用しています。そのため手動式のサナモア7号器・8号器では照射時間が十分強で切れ、長時間の照射にはご不便をお掛けしてきまして、この点を改良したのが全

自動光線治療器はつらつさんで、照射時間は5分刻みで60分まで設定でき、カーボンの消耗に合わせてジョイントできるサナモアカーボンを新しいおけば、自動的にカーボンを送り安定した光線を放射します。

\*

なおはつらつさんご使用の際には、安全性を保ち、事故を未然に防ぐため、ジョイントカーボン以外のカーボンは絶対に使用しないで下さい。使用上の注意は、「はつらつさん取扱説明書」をご覧ください。

速、サナモアの照射方法について、質問の電話を受けた。

療法経過 治療はBCカーボンを使用。集光器を用いて、患部の耳を正面からと耳介の下部からと、各々、30分以上照射すること。後頭部、喉、鼻を各10分以上、足裏を20分照射するように指示した。その後、二か月目の診察後に、報告があり、病状は改善傾向で、耳漏も見られなくなっている、手術はもうしばらく様子を見てからにしま

しょうと説明を受けたとのことであった。その際、患部である耳への照射は、時間の許す限り、少しでも長時間照射するよう指示。さらに数か月が経過した頃には、耳漏もすっかり消失し、手術はしなくてもよいと説明されたとのことで大変喜んでいました。しかしながら、今後、再発の可能性もあるので、時間に余裕のある時には、耳だけでもBCカーボンで照射を続けるように説明した。



## 治験例報告

## 尾骨骨折に対する

## サナモア治療経験

川崎市 東京光線治療院

海渡 一二三氏報告

TEL〇四四一七三二五〇六七

症例 30歳 女性会社員  
 症状 朝自宅の階段から滑り落ち、尻もちをついたが、お尻と腰の強い痛みで会社に行けず、病院に直行したところ、レントゲン検査にて尾骨骨折と診断され、治療を受け帰宅した。しかしながら、痛みが引かず、サナモア愛用者である父親に相談したところ、サナモア光線療法で治療した方がよいと考え当院に治療を依頼。当院では、骨折の治療に関しては、多くの経験があり、早速、治療を引き受け開始した。

療法経過 治療には、当初、痛みを軽減させるため、BDカーボンを使用。痛みが和らいでから、ABカーボンで治療することとした。四台の治療器を用い、全身照射で行った。側臥位にて、始めに腰部と尾骨付近に60分

顔と膝に10分。後頭部、腹部、足裏に15分照射。次に仰臥位として、右肩、左腰、右膝に10分。さらに左肩、右腰、左膝に10分照射。最後にもう一度、側臥位

とし、尾骨付近を20分照射し終了した。痛みはかなり緩和された様子で、喜んで帰宅。三日目の治療後には、あの時の激痛が嘘のように取れたと大変満足そうであった。四日目から、自宅にてABカーボンで継続治療するよう指示して当院での治療は終了としたが、数日後の連絡では、痛みがすっかりなくなり、元気に通動しているとのことであった。

白で夏にもかかわらず、保温器を携帯していたため、病氣と戦うには、体質改善と基礎体温を36度前後に維持する必要があることを説明し、納得して頂いてから治療を開始した。右側臥位にて足裏(AB)、下腹部(BD)を20分照射後、左側臥位にて下腹部(BD)と腰部(AB)を20分照射。

さらに、全身照射は、右側臥位にて足裏(AC)、膝(AB)、腹部(BD)、腰部(AB)を35分照射し終了した。これまでの闘病期間が長かったため、治療開始初期にはサナモアの効果がきちんとした形で表れなかったが、迷いを抑えて、治療を続けたところ、約半年が過ぎた頃に、下血が見られなくなり、腹痛も確実に軽減していることを自覚できた。現在も、サナモアを継続し、良好な状態を維持しているが、併せて、きちんとした生活習慣を守るように努めている。

## 治験例報告

## 十年來続いた潰瘍性大腸炎の

## 苦痛がサナモアで改善

武蔵野市 カワグチ光線整体療法院

川口 一憲氏報告

TEL〇四四二二二二三九九〇

症例 53歳 女性  
 症状 平成十一年春、通院先にて施行した検査で、大腸の広範囲に潰瘍とポリープが多発している所見を認め、潰瘍性大腸炎と診断。日頃より便秘と下痢、下血を繰り返し、腹痛感が著明で、低体温(34・8度)も伴った

ため、夏でも保温ベッドと携帯用保温器を常備し、睡眠も浅いことが多かった。これまで入院を繰り返してきたが、知人よりサナモア光線療法のことを伝え聞いたため、大きな期待を胸に来院された。

療法経過 来院当初、顔面は蒼

## サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA(緑印)、B(赤印)、C(青印)、D(黄印)カーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともどもご愛用者各位の御信頼を戴き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことはご存じの通りです。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセットしたり、当研究所が独自に広めたカーボンの呼び名のA、B、C、Dや緑印、赤印、青印、黄印を勝手に流用したり、あたかもサナモアと同じと見せ掛けて販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる人をあざむく行為は断じて許されるものではありませんが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任は持たませんので呉々もご注意下さい。

なおカーボンについて疑問の点がありましたらお問い合わせ下さい。

(株)東京光線療法研究所



# サナモア 光線療法 愛用者の声



サナモアで額のこぶが

一日で治りました

所沢市 川島 寿子様

ある日、試験場へ向かっていました。不慣れな駅のホームの掲示板を見ようと立ち止まったところ、いきなり他の乗客にぶつかられて転倒しました。咄嗟の出来事で十分な受け身をとることができず、みかげ石でできた境界に額を強く打ち付けてしまったのですが、目から火が出るような強い痛みで、額は見る見るうちに腫れ上がり、一時周囲は騒然となり、駅員も駆けつ

けてくれました。駅舎の部屋で、ぶつけた額を氷で冷やして休んでいたのですが、どうしてもその日の試験が気になり、会場に駆けつけて何とか試験を受け帰宅しました。

自宅に戻ると、サナモア愛用者の声を信じて、早速、光線治療を行いました。痛みは軽減し、翌日には見事に腫れがひき、ちよつと見ただけでは、分からない程度にまで改善しました。

ぶつけた時の腫れた額を見ていた会社の人たちや家の人は、もっと悪化するだろうと思っていたらしく、一様に不思議そうにサナモアの効果に感心していました。

## 解説

よく打撲して腫れた部位に、直接サナモアを照射してよいのでしようかといった内容のご質問を受けることがあります。今回の体験談は見事にその質問に答えているように思います。サナモア光線療法には、腫れた局所の血液循環を促進する作用

があるため、ダメージを受けた組織に栄養素や酸素が運び込まれ、治癒力の増大につながります。またこの時、組織間に漏れ出た浸出液の回収をも促す作用があるため、腫れは、驚く程、早く引くのです。

患部を冷やすことは、痛みを紛らわすにはプラスかもしれませんが、決して、治癒を促進する方向に働くわけでないことをご認識下さい。

## サナモア体験記募集

サナモア光線協会では、皆様からの体験記を募集しております。なお掲載させて頂いた方には、薄謝を贈呈致します。

この度、サナモア体験記の投稿について、メールでの募集も開始いたします。下記のアドレスまで、お気軽にご投稿をお願い申し上げます。

メールアドレス：sanamore@hr.catv.ne.jp



サナモア光線協会

趣意書

サナモア光線協会は、太陽光線こそ健康を増進する自然の恵みの源泉であり、生命力を高めて病気の予防、治療に効果があるとの観点に立ち、太陽光線に近似したフルスペクトル光線を放射するサナモア光線療法の啓蒙、普及活動に努めることで、国民の健康、福祉に貢献します。

サナモア光線協会は、サナモア光線療法に対する認知と評価を高めるため、一、季刊紙、「健康と光線」の発行、二、サナモア光線治療師の募集と育成の事業を行います。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

「健康と光線」の購読者を募集します。

また事業の詳細はお問い合わせ下さい。

〒153-0063 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL (03) 三七九三―五二八―  
三七二―五三三―

(本紙の無断転用を禁止します。)